

【どんど焼きを題材とした授業実践例】

正月の行事(どんど焼き)の教材化



どんど焼きは小正月（1月15日）に日本各地で行なわれる歳神様を空に送る火祭りで、長野県内でも「どんどん焼」、「さんくろう」、京都では「左義長」、九州では「鬼火焚き」、静岡では「さいと焼き」などと、地域によって呼び方はいろいろとあるようです。



お正月に使った門松やしめ縄、お守り、破魔矢、祈願成就した「だるま」などを持ち寄って焼き、その火にあたったり、繭玉や餅を焼いて食べたりして、無病息災を願うお祭りですね。



「どんどの火で焼いた団子を食べると虫歯にならない」とか、「書き初めを焼いて、それが高く上がると、習字が上手になる」ということも語り継がれているようね。



長野県野沢温泉村
「道祖神火祭り」

長野県野沢温泉村では、どんど焼きを「道祖神火祭り」といい、道祖神との結びつきを強調していて、国の重要無形民俗文化財にもなっていますね。小屋ややぐらの作り方も日本全国でほぼ共通していて、青竹、藁（わら）、杉、檜の枝などで作っていますが、新潟県阿賀町石間のどんど焼きは、高さ33mほどのやぐらを組み、「日本一の高さ」と誇っているそうです。



集落内の路傍にまつる道祖神の火祭りとしての意味があったり、繭玉のだんごを焼いて食べるということから、昔は重要な換金生業であった「養蚕」繁盛を祈願する予祝行事でもあったといえるようよ。



残念ながら、近年都市部ではどんど焼きが廃れている傾向が見られます。一方地域では、伝統行事を見直した地域の活性化という視点から、復活する例も見られようになってきました。



学習指導案

小学校4学年 学習指導案(単元展開例)

1 単元名

地域に残るお正月の行事を調べて参加しよう

2 単元のねらい

子どもたちにとっては、毎年何気なく参加しているであろうお正月の行事について、あらためて自分たちの生活とどのような関係があるのかを調べ考えさせることで、地域にくらす人々の願いや生活の変化といったことがらに気づかせたい。

どんど焼きは、名称は異なっても、全国各地で地域に根ざした素朴なお祭りとして伝承されている行事であることから、子どもたちがどんど焼きを調査することで、地域そのものに目を向け、先人の思いに心を寄せながら、自分たちも素朴な地域に根ざした文化を受け継いでいこうという意識を育みたい。

3 伝統文化等に関する教材化の視点(つけるべき力)

- ・ どんど焼きは、日常生活全般の安全安心への願いがこめられた地域の人々の素朴なお祭りであることがわかる。
- ・ 日本各地で、自分たちの地域と同じ思いでどんど焼きが行われていることを知り、自分たちの地域も含めて、人々がどんど焼きという文化を大切に伝え、守っていることを理解し、自分たちも地域の一員としてどんど焼きを受け継いでいこうとする気持ちを持つ。
- ・ 地域(地区)の一員として、地域への愛着や発展を願い、どんど焼き以外の地域の行事にも主体的にかかわろうとする意欲をもつ。

4 展開案 (全4時間扱い)

段階	主な学習活動	指導や支援のポイント	時
導 入	1. どんど焼きの写真を見て、知っていることや体験したことを発表する。	◇自由に発表させ、項目別に内容を分類して、黒板に整理する。その中から、詳しく知りたいことをまとめて学習問題として設定する。	1
	[学習問題] どんど焼きについて知ろう。		
展	2. どんど焼きについて、家で調べてくる。	○いつごろからやっているのか ○目的はどういったことなのか ○ご利益は何なのか	1
	3. 調べてきた内容について、発表し、地域の人々の願いを	○どんど焼きが行われている由来について確認をする。 ○どんど焼きにこめる人々の思いを考えさせる。	

開	考える。	<p>○どんど焼きで語り継がれてきたことを確認し、日時用生活との関連性について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちも、次の行事から主体的にかかわろうという気持ちを持たせたい。 	
	4. 他地域での様子を調べる。	<p>○用意した資料から、日本各地でもどんど焼きが行われていることに気づかせる。</p> <p>[NPO法人地域資料デジタル化研究会の小正月の行事に関する調査の資料を活用する]</p> <p>○自分たちの地域のどんど焼きと他地域のものと比較させ、共通点と相違点を確認する。</p> <p>○日本地図を活用させながら、それぞれの地域（県）の特徴を考えさせる。</p> <p>○日本各地で行われているどんど焼きを調べることを通して、人々の思いは地域が違って共通していることに気づかせたい。</p>	2
まとめ	5. どんど焼きについて、まとめをする。	<p>○地域に伝わる行事に対する先人の人々の思いに心を馳せることで、自分たちも文化を受け継いでいこうという気持ちを持たせたい。</p> <p>◇日常生活の中で、由来等がわからないまま、関わったり参加している行事を各自確認し、本来の由来等を調べさせ、これからの行事へ主体的に取り組めるようにしたい。</p> <p>[節分、鏡餅、鏡開き、道祖神、水神祭、春祭り、虫送り、神楽、繭玉…] など。</p>	

※自分の課題テーマとして 節分、鏡餅、道祖神、水神祭、春祭、虫送り、神楽、繭玉など親子の対話の中からそのおこりや由来を聞き取り調査をしてまとめオープンエンド形式で終えることで、高学年の学習につなげるようにする。

5 参考資料

[長野市旧共和村のようす]

1月15日の夜はどんど焼きの夜である。どんど焼きはどここの集落でも道祖神の前で行われるのが一般的であった。正月の間、各家の玄関や神棚を飾ったしめ飾りは、15日の朝その役割を終え、各集落の道祖神の前に集められ、「どんど焼き」として焼却された。

どんど焼きは本来子どもの行事だったという。古くは、どんど焼きの前日にしめ飾りはずし、道祖神の前で一晩を過ごす習慣があった。その間に他の集落のしめ飾りを奪い、できるだけ大きな山を作ることが集落の子どもの誇りであった。

その年満15歳になる子どもが親方になって番小屋を作り、集落の子供を集め、しめ飾りの山を守りながら徹夜し、集落の伝統や伝承を次の世代に伝えた。親方をつとめた子どもは、この日を最後に大人の仲間入りをした。

どんど焼きの山は、中心に高さ7-8メートルの松の木や青竹を置き、その周りにしめ飾りを積み上げた。集落によっては松の木の代わりに、冬でも緑の葉をつけている広葉樹を使うこともあった。

しめ飾りを積み上げる際、子どもたちのために、しめ飾りの山に貨幣を隠しておいた。燃え盛るどんど焼きの中から貨幣を捜し出すことは大きな楽しみであった。拾った貨幣はいったん神棚に上げ、その後厄除けの御守りとして大事にした。

また、どんど焼きの火はちょうちんのろうそくに移して家に運び、その火で焼いた餅を食べたり、お茶を沸かして飲むと1年中災難を除けるといわれた。

<http://www.i-apple.jp/kyowa/207/06-2/> 参照

学習カード

学習カード 1

年 組 番 氏名



何をしているのかな？

○ 自分の知っていることを書いてみよう

	参加したところ・知っていること	友だちの発表
燃やす日		
燃やすところ		
あぶるもの		
燃やすもの		
燃やす時間		
準備をする人		

○ 感想

--

1 どんど焼きについて調べよう

聞いた人	
おこり	
いわれ	
ならわし	
聞いた感想	

2 もっと知りたいと思ったこと

--

○ 他の地域のどんと焼きについて調べよう

場所(県)	自分のところと同じこと	自分のところとちがうこと

[地図に書き込んでみよう]



学習カード4

年 組 番 氏名

○ むかしから続いている「ならわし（行事）」を調べよう

「ならわし」の名前	調べてわかったこと
調べたいわけ	
教えてもらった人	

「ならわし」の名前	調べてわかったこと
調べたいわけ	
教えてもらった人	

「ならわし」の名前	調べてわかったこと
調べたいわけ	
教えてもらった人	

「ならわし」の名前	調べてわかったこと
調べたいわけ	
教えてもらった人	

○ 感想

--